

ダム建設再検証以前・建設再開後の住民問題意識の変化に関する調査研究
 Change of People's Awareness before Re-examination and after Re-start of Kouchigawa Dam Construction

○細田 尚
 ○Takashi HOSODA

This paper describes the results of the questionnaire to survey the people's awareness to the construction of the Kouchigawa Dam, which is being constructed in the upstream area of the Kitagawa river running in Obama City and Wakasa Town, Fukui Prefecture. The questionnaire survey was carried out two times in 2009 before the re-examination of the construction and in 2013 after restarting of the construction. CVM was applied to detect the temporal change of people's awareness to the dam construction as the change of WTP. The percentage of people with each of the opinions such as Approval, Neutral and Disapproval was also measured to study the temporal change of people's awareness. The results obtained through the survey are summarized in this presentation.

1. はじめに

本研究は、ダム建設に対する住民の問題意識を調査するために、ダム建設再検証前と建設再開後に行われた二回のアンケート調査を整理・分析した結果を要約したものである。

本研究では、福井県嶺南地域の若狭町・小浜市を流れる北川上流域の河内川に建設中の河内川ダムを対象とした。流域を図-1に示した。アンケート調査はダム建設再検証前の2009年12月と建設再開後の2013年12月に行われた。アンケートでは建設に対する賛成・反対、建設に対する支払い意思額等を問う設問を設定した。WTPとして「各世帯から税金として〇〇円を20年間納める」という税金方式を採用した。2009年に行ったアンケート調査結果については参考文献(1)を参照のこと。



図-1 北川の流域図

2. 調査結果の概要

まず表-1に再検証前・建設再開後におけるWTPの変化を示した。支払いカード方式を用いるとともに対数線形ロジットモデルでWTPを評価している。中央値は前後でほとんど変化していないことが分かる。次に、表-2に小浜市と若狭町のWTP(中央値)に違いを示した。ダム建設現場に近い若狭町ではWTPが大きく増加しているが、小浜市では減少している。次に、表-3に小浜市での地区によるWTPの違いを示した。地区の位置については図-2を参照。北川と南川に挟まれた地区3が最大のWTPを示し、北川の北側に位置する地区1、地区2が次いで大きく、南川の南側に位置

表-1 WTPの変化

	再開前	再開後
WTP 中央値	1,342	1,241
WTP 平均値	3,905	2,793

表-2 地域によるWTPの違い

	小浜市		若狭町	
	再開前	再開後	再開前	再開後
WTP	1,601	1,245	705	1,258

表-3 小浜市の地区によるWTPの違い

	地区1	地区2	地区3	地区4	地区5
WTP	1,642	1,483	1,819	1,159	951

する地区 4, 地区 5 が小さい値となっている。地区 2, 地区 3 は北川との距離が短く, 治水に関する関心が高い地域である。一方, 市街地である地区 4 や南川上流の地区 5 は北川から離れている。つまり, 北川による洪水被害が懸念される地域ほど大きな WTP を示していることが分かる。

表-4 に, 前後の賛成, 反対およびどちらとも言えないと回答した人の割合を示した。前に較べて後の賛成の割合が大きく増加し, 反対が少し減少している。また, 後においてもどちらとも言えない割合は依然として大きい。かなりの数の人が前のどちらとも言えないから賛成に移行するとともに, 前の反対から後のどちらとも言えないに移行した人も存在しているように思われる。

このような前後の変化について考察するために, 理由記入欄の内容を表-5 のように分類して, 賛成・反対の割合を算出した結果が表-6 である。表-5 の分類不可能はどちらとも言えないとみなす。表-6 の賛成と消極的賛成の和が表-4 の賛成に近いことから, 後の賛成と回答した人の中には「既に建設が進んでいるので今更仕方がない」というような消極的賛成の回答者がかなりの割合で存在していることが分かる。また表-6 では表-4 よりも反対に分類された回答者の割合が多いことを考え合わせると, 前と後の間で十分な合意形成が行われたと判断することは難しいように思われる。

3. 結論

上記の考察と, 表-1 に示した前後での WTP の変化が小さいことを考え合わせると, 再検証・建設再開前後での住民問題意識の変化は小さいと考えられる。WTP が建設再開のような状況の変化に

表-4 前後の賛成・反対の割合

	再検証以前	建設再開後
賛成	26.7%	54.9%
どちらとも言えない	46.5%	36.4%
反対	16.7%	7.3%
無回答	10.0%	1.4%

表-5 記入された理由による分類

理由記入欄の内容	分類
「防災的観点から必要」	賛成
「農業用水の確保」	賛成
「既に建設が進んでいる」	消極的賛成
「立ち退いた住民に対する配慮」	消極的賛成
「無駄な公共事業である」	反対
「建設費用がかかりすぎて負担が大きい」	反対
「判断できる材料が乏しい」	分類不可
「わからない」	分類不可

表-6 理由により分類された割合

	賛成	消極的賛成	反対	分類不可
再検証前	29.6%	2.8%	36.6%	31.0%
再開後	40.0%	16.8%	16.8%	26.5%

対してあまり変化しなかったことはこのような状況を反映しているとみなすと, WTP は建設前における合意形成の程度の計測や建設を進めるかどうかを判断するための一つの指標として有効であるように思われる。

4. 結論

- (1) 細田 尚, 上總友宏, 大原一也: ダム建設予定のある北川を対象とした河川整備に対する住民意識調査とその分析, 第 41 回土木学会土木学会土木計画学研究発表会・CD 講演集, 2010.

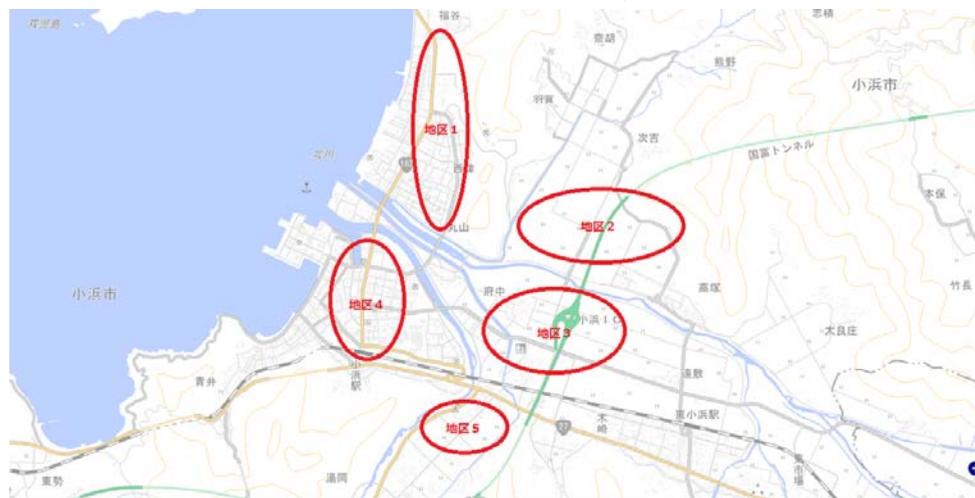


図-2 小浜市のアンケート配布地区の位置